

## 11 剣道

### 《過去に発生した重大事故例》

- 中学校の剣道部において、練習後道具の後片付けをしていた際、他の部員が振り回していた竹刀が手元を離れて飛び出し、他の生徒の顔面に当たり、左目を失明した。
- 高校の剣道部において、練習中に男子部員1人が意識もうろうとなつて倒れたため、約2時間にわたり、床に寝かせて扇風機で風をあてるなどしていたが、その日の夜に熱中症による腎不全で死亡した。指導者は救急車を呼ぶなど、適切な救護措置をとらなかったとして、業務上過失致死容疑で書類送検された。

### (1) 運動や競技の特性

剣道は、竹刀を使って定められた部位を打突し、有効打突を競い合う競技である。竹刀を媒介に行うために直接的な身体接触が少ないことから、体格・体力の優位性に大きく影響されることなく、老若男女だれにでも行える生涯スポーツである。そのため、剣道による外傷の頻度は他の種目に比べて低いのが特徴である。また、剣道は日本の歴史と伝統の中で生まれ育った武道の一つであり、礼儀作法や技術、態度等の根底には、「自己実現」を目指した求道精神がある。

### (2) 内在する危険性と発生しやすい事故

#### ア 内在する危険性

- ・竹刀の破損等、用具の不備が事故の原因となることが多い。
- ・木の床の上で裸足で練習をするため、足の指や足関節、アキレス腱など足部を負傷することがある。
- ・体温が逃げにくく、水分補給がしにくい防具の特性により、気温が高い時期には、熱中症となる危険性がある。

#### イ 起きやすい事故

- ・右足前で踏み込む剣道の特性によるアキレス腱断裂や腰痛
- ・裸足で行うことによる足底腱膜の炎症や表皮の断裂
- ・無理な体制での打突や体さばきによる足関節のねんざ
- ・高温多湿の環境下での熱中症

### (3) 事故防止のための対策

- 技能の習熟の程度に応じた段階的な練習を行う。
- 竹刀の破損や剣道具の安全を常に確認し、防具を適切に着用するよう指導する。
- 施設・設備の日常の安全点検を励行するとともに、安全面の充実を図る。

### 《安全指導のポイント》

- ・常に竹刀や防具等、用具の安全点検を行うよう十分に指導しているか。
- ・武道の特性を理解させ、相手を尊重しながら活動するよう指導しているか。
- ・危険だと思われる動作等が見られた場合は、素早く指導しているか。

### 《安全管理のポイント》

- ・児童生徒の技能や体力に対応した段階的な指導計画を作成しているか。
- ・武道場等の床や壁、気温や湿度等、活動場所の安全点検を行っているか。



## 12 弓道・アーチェリー

### 《過去に発生した重大事故例》

- 高校の弓道部で、雨天時に校内の階段の踊り場において巻わらで練習していたところ、巻わらの前を走り抜けようとした他の部の生徒に、放たれた矢が当たり、生徒の頬を貫通した。
- 高校の弓道部で、校舎の中庭で生徒と共に練習していた顧問の放った矢が、的を外れて後ろまで飛び、的の後ろを歩いていた他の部の生徒の左側頭部に刺さった。

### (1) 運動や競技の特性

弓道及びアーチェリーは、遠く離れた的に弓を用いて矢を放ち、どれだけ命中させることができるかを競う競技である。人を相手にする多くの競技と異なり、相手が的であることから、自分の体格や力に合った用具（弓・矢）があれば、季節や天候等の自然条件に左右されることなく、練習時間も自由に調節でき、運動量も比較的少ないため、年齢や男女を問わず、親しみやすい運動である。

### (2) 内在する危険性と発生しやすい事故

#### ア 内在する危険性

- ・「矢」自体が殺傷能力を有しており、誤った使用方法や操作によっては、重大事故につながる危険性がある。
- ・道場や練習場の安全管理が不十分で、矢が道場や練習場外へ飛び出して、人に当たる危険性がある。

#### イ 起きやすい事故

- ・弓の傷や弦の破損による射手の裂傷や擦過傷等の負傷
- ・的の後方や巻きわらの周囲を確認せずに矢を射ることによる事故
- ・矢取りの際に射手との連絡が不十分で、矢取りに入ったものに矢が当たる事故

#### 【弓道】

- ・矢が短く、引き分けた際に弓の中に入り込み、飛び出したり、折れて射手に当たったりする事故
- ・巻わらに放った矢が跳ね返り、射手に当たったり、外れて周囲の者に当たる事故
- ・弓を持つ手の角見（親指）部分の裂傷

### (3) 事故防止のための対策

- 活動場所は、的の後方に人家・道路等がなく、人が立ち入ることがない場所を選ぶ。
- 自分の体力でコントロールできる強さの弓具を使用する。
- 施設・設備の日常の安全点検を励行するとともに、安全面の充実を図る。

### 《安全指導のポイント》

- ・常に用具等の安全点検を行うよう指導しているか。
- ・児童生徒や指導者は、常に誤射する可能性があることを自覚し、安全に配慮するよう心がけているか。
- ・いかなる場合でも、矢の飛ぶ方向に人を立ち入らせないことや、弓を人に向けて引かないことを徹底しているか。

### 《安全管理のポイント》

- ・外部の人間を遮断するなど、射場の安全を十分に確保しているか。
- ・弓・矢の数量を常に確認するなど、用具の管理を徹底しているか。
- ・練習中は、矢の飛ぶ方向に人がいないことや、人が立ち入ることがないように、指導者と児童生徒による監視体制を整備しているか。



## 13 スキー・スケート

### 《過去に発生した重大事故例》

- 高校の体育授業において、スキー場でスキーを行っていた際、生徒が一般のスキーヤーに衝突し、肩こう骨骨折等の重傷を負わせた。
- 高校の部活動において、アイスホッケーの試合中、相手の放ったパックがヘルメットのフェイスマスクとネックガードの隙間を通り、左耳下を直撃し、後日死亡した。

### (1) 運動や競技の特性

スキーは、冬季の厳しい気候条件の下、広大な自然の中で行われる運動で、アルペンやノルディックなどの種目がある。また、スケートは、スピードスケート、フィギュアスケート、アイスホッケーなどの種目がある。これらは、自然とのかかわりの中で行われ、自然に深く親しむとともに、自然の中での行動の仕方を身に付けることができるスポーツである。しかし、冬季の厳しい気象や地形などの自然条件の影響を受けやすく、事故や災害の危険が潜んでいる。

### (2) 内在する危険性と発生しやすい事故

#### ア 内在する危険性

- ・スキーは、気象や地形など自然条件の影響を受けやすい。
- ・スケートは、堅い氷上で行われるため、転倒時の衝撃が大きい。
- ・スキー、スケートは、極めて速いスピードがでるため、大きな事故に繋がる危険性が高い。
- ・用具の整備不良などが原因で事故が起こる可能性がある。
- ・低温の環境下で実施するため、身体への負担が大きく負傷する危険性が高い。

#### イ 起きやすい事故

##### 【共通】

- ・エッジによる裂傷
- ・寒さによる凍傷

##### 【スキー】

- ・立木や支柱、滑走者同士の衝突による打撲や骨折
- ・転倒による打撲や骨折

##### 【スケート】

- ・スケートリンク上での転倒による頭部の打撲
- ・フェンスへの衝突や滑走者同士の衝突による打撲や裂傷
- ・パックやスティックが当たることによる打撲、裂傷（アイスホッケー）

### (3) 事故防止のための対策

- スキー、スケートには、事故や災害の危険性が潜んでいることを十分に理解させるとともに、安全に行うために必要な知識を身に付けさせる。
- 技術の習熟の程度にあわせた段階的な練習を行う。
- 指導者の危険を回避する能力を高める。
- 施設・設備の安全確認を励行するとともに、用具の点検を徹底するよう指導する。

### 《安全指導のポイント》

- ・スキー場やスケートリンクにおけるルールやマナーについて、十分に指導しているか。
- ・用具の安全な使用の仕方を十分に指導しているか。
- ・けがや凍傷を防止する観点から、手袋や帽子を必ず着用させているか。
- ・天候の急変や緊急時における避難を想定し、防寒対策を十分にを行うよう指導しているか。

### 《安全管理のポイント》

- ・現地を視察し、スキー場やスケートリンクの状況や危険箇所を確認しているか。
- ・スキー場やスケートリンク、指導者同士の連絡体制、救急体制を整備しているか。
- ・スキー場では、天候の状況に配慮しているか。
- ・ゲレンデやスケートリンクでは、周囲の状況に応じて活動場所や練習方法を考えているか。
- ・集合する場合は、安全な場所や隊形に配慮しているか。



## 14 ボート・ヨット・カヌー

### 《過去に発生した重大事故例》

- 高校の部活動において、ボート大会に出場した際、待機場所の2人乗りボートが強風により転覆して川に転落し、1名はすぐに救助されたが1名は死亡した。
- 高校の部活動において、遭艇部の練習中、生徒4人が乗ったボートが転覆して全員が川に転落し、ボートに乗っていた1人と岸にいて泳いで助けに向かった生徒の2人が溺れ、死亡した。

### (1) 運動や競技の特性

ボートやヨット、カヌーは河川、湖沼、海など自然の中でオールやパドル、風などにより船体を進めることで、自然に親しんだり、移動する早さを競ったりするスポーツである。これらのスポーツは、気象や地形などの自然条件の影響を受けやすく、事故や災害の危険が潜んでおり、自然の状況を的確に把握しながら、安全に活動を行うための知識や技能を習得させることが重要である。

### (2) 内在する危険性と発生しやすい事故

#### ア 内在する危険性

- ・河川、湖沼、海などの自然を利用して行う競技であるため、水に関する事故の危険性を常に伴う。  
(ちょっとした間違い、油断が死亡事故につながる)
- ・コース等の状況は一律ではなく、地理、地形により危険の度合いが変化する。
- ・天候や水上の状況などの条件は急に変化しやすい。
- ・施設設備、用具等の整備不良による事故が起こりやすい。
- ・夏季中心に行われる競技であり、炎天下での活動になる場合が多い。

#### イ 起きやすい事故

- ・水中への転落による溺水
- ・ボートやヨット、カヌー同士の衝突事故
- ・ワイヤーや艀装品によるけが(ヨット)
- ・荒天時の落雷による事故
- ・炎天下で長時間の活動による熱中症

### (3) 事故防止のための対策

- 実施する場所の地理的条件や天候などの情報を十分に収集し、練習や競技会の実施の可否について適切に判断する。(とにかく天気予報を見ること、聞くこと)
- 練習や競技会の実施の可否については、全面実施か中止の判断だけでなく、一時中断や一部地域への進入禁止、初心者のみ中止などといった臨機応変の措置を考慮しておくことが必要である。
- 指導者の様々な情報から危険を予測し回避する能力を高める。
- 児童生徒に安全に行うために必要な知識を身に付けさせるとともに、変わりやすい自然条件の中で、危機回避の行動がとれるよう指導する。
- コースの安全確認を励行するとともに、用具や救命具の点検を徹底する。
- 水上や陸上における監視体制や、河川、湖沼、海などにおける救助体制を整備する。

### 《安全指導のポイント》

- ・ライフジャケットを着用させているか。
- ・水泳訓練や転覆訓練、救助訓練を実施しているか。
- ・AEDの使用法を含めた心肺蘇生法の講習等を行っているか。
- ・炎天下では、帽子を着用し水分補給を行うよう指導しているか。
- ・児童生徒の体力や技能に応じた活動内容になっているか。

### 《安全管理のポイント》

- ・関係機関と連携を図り、救助体制や救急体制を整備しているか。
- ・救命具、医薬品、AEDなどの準備はできているか。
- ・気象情報を短期的・長期的に把握しているか。
- ・船の傷や亀裂の確認など、施設設備、用具等の安全点検を十分に行っているか。
- ・危険箇所の監視体制は万全か。



## 15 ボクシング

### 《過去に発生した重大事故例》

- 高校ボクシング部において、1年生男子部員が3年生の全国上位の実績をもつ3年生男子部員とマスボクシング（実際にパンチを当てないで攻撃や防御を繰り返す練習）を行った際、1年生部員が相手のパンチを避けきれず顔面や頭部に受けて倒れ、硬膜下血腫で死亡した。
- 高校のボクシング部において、入部して3ヶ月の女子生徒が他校女子生徒とのスパーリングを行った際、パンチを受け急性硬膜下血腫の傷害を負い、高次脳機能障害の後遺症が残った。

### (1) 運動や競技の特性

ボクシングは、拳にグローブを着用しパンチのみを使い、相手の上半身と側面のみを攻撃対象とする格闘スポーツである。そもそもボクシングは、紀元前4,000年ころの古代エジプトですでに競技に発展していたと考えられており、古代オリンピックでも正式競技として行われていた。現在は、アマチュアボクシング連盟の競技規則において、服装やグローブ、ラウンド数などの細かなルールが定められている。

### (2) 内在する危険性と発生しやすい事故

#### ア 内在する危険性

- ・相手と打ち合う行為自体が身体にダメージを与えることである。
- ・上半身を打ち合い、勝敗を競う競技の特性から、脳出血等による重大事故が発生する危険性がある。
- ・頭部に衝撃が加わることにより、パンチを受けた者が試合中に死亡するほか、試合終了後に意識を失い、重大事故に至る例も見られる。
- ・直接的な原因が特定できなくても、試合行為による蓄積的な影響で最終的に重い障害にいたる場合もある。

#### イ 起きやすい事故

- ・頭部打撲による急性硬膜下血腫、脳しんとう、慢性外傷性脳損傷
- ・パンチを受けることによる顔面の骨折（特に鼻、下顎）及び擦過傷
- ・ // 目、耳の損傷
- ・打ち合うことによる手首の損傷

### (3) 事故防止のための対策

- ボクシングの運動の特性や考え方を十分に理解させるとともに、安全に対する意識を高める指導を徹底する。
- 全日本アマチュアボクシング連盟が定めるルールや留意事項を遵守し、技術の習熟の程度のあわせた段階的な練習を行う。
- 専門的な指導者による指導を原則とする。
- ヘッドギアやグローブなど用具の安全点検を励行するとともに、リング等施設の安全の充実を図る。

### 《安全指導のポイント》

「初心者指導及び競技実施上の留意点」（全日本アマチュアボクシング連盟）〈抜粋〉

- 1 6ヶ月間は基礎体力、基礎技術の習得を並行して実施する。
- 2 条件付きボクシングは練習開始後6ヶ月以降から開始する。
- 3 スパーリングは練習開始後9ヶ月以降から実施する。
- 4 指導者不在時はスパーリングを行わない。
- 5 スパーリングの開始にあたっては基礎技術の習得が十分か否かを判断すること。
- 6 スパーリングの実施に際しては、心身のコンディションを確認すること。
- 7 スパーリング中のダメージを判断してただちに適切な処置をとること。
- 8 競技会の出場に際して、出場は練習開始12ヶ月以降とする。  
(1)その大会の水準、(2)選手の技術の習熟度、(3)必要とする体力の充実度及び身体コンディション、(4)適切な体重調整、(5)精神的充実、などを判断すること。
- 9 正しい打ち方と安定した防御を習得させること。防御技術の未熟な競技者の練習には、強打を受けないよう特に注意すること。
- 10 選手の養成は焦らずに、特に競技会の出場を急いではならない。